

動画解説まとめ 17 / AI活用

Claudeで作る動画と繰り返し使える仕事道具

解説動画、LINEスタンプ作成ツール、診断ページなどの実演から、Claudeに渡す材料と修正の流れを整理。作った仕組みを繰り返し使う考え方も紹介します。

この動画の要点

Claude Fable 5を使い、解説動画やLINEスタンプ作成ツール、診断ページなどを制作した実演のまとめです。自分のキャラクターを渡して動画を作り、音声やテンポを修正する流れに加え、基本となる仕組みを作ってからテンプレートを増やす考え方を紹介しています。何を作れるかだけでなく、誰の面倒な作業を解決し、どう届けるかを考えることが主題です。うまく完成しなかった実演も区別して整理しました。

01 キャラクターや用途を渡し、完成物を見て音声やテンポを修正する。

02 毎回作り直す作業を、テンプレートと入力欄のある道具へ変える。

03 高性能なモデルで基本部分を作り、その後の追加作業を分ける。

04 誰のどんな手間を減らすかと、届け方をセットで考える。

資料の使い方

動画の要点を読み返し、紹介した手順を実践するときにお使いください。本文の時刻を押すと、元動画の該当箇所を開けます。

元動画：【まだ間に合う】月250万円級の最強AIClaude Fable 5の使い方を超初心者向けに実演解説

<https://www.youtube.com/watch?v=u11dGJ-fnbg>

AIを試す目的を、使える完成物に置く

動画の該当箇所 6:00 / タップして開く

動画では、Claude Fable 5で制作した解説動画や小さなツールを実際に動かしています。最初に見せる解説動画は、あべさん自身のキャラクター素材を渡し、プログラムによる配置やアニメーションなどを使って作ったものです。完成した映像を見ることで、文章の回答だけでなく、見せて使えるものまで作れるかを確認しています。

紹介の中心は、性能の高いAIへ何度も単発作業を頼むことより、一度作れば繰り返し使える仕組みにするという考え方です。動画内には期間限定の利用枠や料金の話もありますが、当時の条件です。タイトルなどに出る大きな金額も、あべさんの使い方を従量料金へ換算した仮定の試算であり、この動画で得た売上や収益を示すものではありません。

- ・ 最初に、何を完成させたいのかを決める。
- ・ 作ったものを再利用できるかまで考える。
- ・ 利用料金や上限は、制作時に利用するサービスの案内で確かめる。

キャラクターを渡し、解説動画を直していく

動画の該当箇所 7:01 / タップして開く

解説動画では、用意したキャラクターを使うこと、横長の動画にすること、Fable 5で何ができるかを視覚的に分かるように説明することを依頼しています。あいさつの言葉を指定し、テロップや効果音などの編集を多く入れてほしいという希望も伝えています。音声入力で依頼したため多少の文字の誤りがありますが、目的をまとめて伝え、AIの計画を見て制作を進めています。

最初の出力は声が聞き取りにくかったため、女性の声にすること、テンポを速くすることを追加で依頼しました。短い版も試しましたが、見比べたうえで元の長さの方を選んでいきます。最初の指示だけで仕上がったという紹介ではなく、聞きやすさや伝わり方を見て数回調整した実演です。

なお、映像内には撮影時点では古くなっていた日付の情報も含まれており、本人がその場で指摘しています。動きや音声を整っていても、内容の日時が正しいとは限りません。動画としての見やすさと、情報の確認を別に行う必要が分かる例です。

- ・ 材料：自分のキャラクター画像と説明したいテーマ。
- ・ 指定：画面の向き、冒頭の言葉、説明の見せ方、字幕や効果音。
- ・ 確認：声、テンポ、長さ、説明内の日時。
- ・ 修正：気になった点を具体的に伝え、複数の版を見比べる。

LINEスタンプ作成を、入力して使える道具にする

動画の該当箇所 12:02 / タップして開く

実演する「テンプレ工房」は、選んだ形式のLINEスタンプ画像をまとめて作れるツールです。動画では40個の画像をまとめたZIPと、日本語・英語の説明文を用意し、LINEのクリエイター向け管理画面へ入力・アップロードする流れを見せています。個々の画像を一枚ずつ作り続けるのではなく、登録に必要な素材をまとめて出せるようにしています。

別の画面では、テンプレートを選び、あいさつなどの文字を入力してグリッドへ反映させています。賞状風、レシート風など、一定の形式へ文字を入れ替えるスタンプが例です。入力内容とデザインの基本形を分けると、文字やテンプレートを変えながら同じ道具を使えます。

実演では画像をアップロードし、申請へ進むところまでを紹介しています。素材を作成できたことと、審査を通過して販売されることは別の段階です。また、本資料は動画で見せた操作の整理であり、このツールのプログラム一式や追加テンプレートを付属するものではありません。

- ・ テンプレートを選ぶ。
- ・ 使いたい言葉を入力し、画像へ反映する。
- ・ 画像をまとめて出力し、説明文などと合わせて登録作業に使う。
- ・ 出来上がった画像と登録内容を確認して申請へ進む。

基本部分の制作と、その後の追加を分ける

動画の該当箇所 13:01 / タップして開く

あべさんは、スタンプ作成ツールの基本となる部分を高性能なモデルで作り、その後に増やすテンプレートは別のモデルでも作れるようにする考え方を説明しています。画像を作るたびに同じ大きな処理を依頼するのではなく、まず動く仕組みを整え、そこへ形式を追加するという分担です。

この方法の意味は、特定のモデルを常に使い続けることではありません。難しい設計や大きな制作に使う部分と、繰り返し発生する小さな変更を区別することです。スタンプを作る場合も、毎回ゼロから指示し直すより、入力・反映・出力の流れができての方が使い回しやすくなります。

動画ではスタンプを例にしていますが、あべさん自身も、全員が同じスタンプ制作をする必要はないと話しています。自分の仕事で何度も同じ操作をしている場面を見つけ、その手間を減らす道具へ置き換えるという考え方を持ち帰れます。

- ・ 最初の制作：入力から出力までの基本の流れを作る。
- ・ 追加の制作：文字やテンプレートなど、変える部分を増やす。
- ・ 繰り返しの利用：作った道具を使い、同じ作業を短くする。

作れるものより、誰の手間を減らすかを考える

動画の該当箇所 16:02 / タップして開く

ほかの実演には、質問へ回答すると向いている副業のタイプを表示する診断ページがあります。休日の過ごし方、得意なこと、繰り返し作業への抵抗、顔や声を出せるかなどを聞き、回答に応じた結果を見せています。結果の下に案内ボタンを設置し、LINEなどへつなげる使い方も考えられると説明しています。

YouTubeの収益シミュレーター、請求書を作る道具、抽選用のルーレット、プロンプトをコピーできる一覧なども紹介されます。シミュレーターは入力した数値に基づいて計算するもので、将来の売上を保証するものではありません。こうした完成物を並べるだけでなく、どんな人がどの場面で使うかを考えることが大切だと話しています。

AIで作れる人が増えると、単にツールを作れたことだけでは選ばれる理由になりにくくなります。あべさんが挙げる論点は、誰のどんな面倒を解決するか、そしてSNSなどを通じてどう知ってもらうかの二つです。一般的な道具の模倣で終わらず、自分が知っている業界や生活の中の細かな困りごとを題材にする方向を勧めています。

- ・ スタンプを作りたいが、素材の準備や登録が難しい人の手間を減らす。
- ・ 請求書など、何度も作るものを入力して出せるようにする。
- ・ 診断結果と次の案内をつなげ、利用者が進める形にする。
- ・ 使ってほしい相手に知ってもらう方法も考える。

動かなかった実演から、確認すべきことを知る

動画の該当箇所 27:01 / タップして開く

後半では、声を使うラップやギターに合わせた伴奏など、遊びの制作例も紹介しています。ただし、声を使うものは実演時にうまく動かず、ギターの自動伴奏も意図した形にはなっていません。あべさんは、自分に音楽の知識が足りないことも制作を進めにくい理由として挙げています。紹介された構想を、すべて完成した機能として受け取らないことが大切です。

プログラムで音やアニメーションを作る例、友人が制作したゲームも見せていますが、実際に操作すると使い方に迷う場面があります。作る側が完成したと感じても、初めて使う人が目的の操作まで進めるかは別の確認になります。

作りたいものが決まらない人には、自分の情報をAIへ渡して相談する方法が紹介されています。自分の生活や得意なことから題材を選び、まず一つの仕事や困りごとに絞る。そのうえで、動くか、相手が使えるかを確かめながら仕上げるという流れです。

- ・ 構想、試作品、実際に動いた機能を区別する。
- ・ 自分に分からない専門部分は、AIの出力だけで完成と判断しない。
- ・ 初めて使う人が迷わないか、実際の操作で確かめる。

実践の進め方

01 解決したい手間を一つ選ぶ

動画の話を実践順に整理しています。自分がよく知る仕事や生活から、誰のどんな面倒を減らすかを決めます。

動画 19:01

02 必要な材料と完成イメージを渡す

解説動画ならキャラクターと説明テーマ、画面の向きや見せ方などを伝え、まず一度形にします。

動画 7:01

03 実際に使って修正する

動画では声やテンポを直し、スタンプでは出力した画像を登録に使っています。目的の場面で使えるかを確認します。

動画 8:00

04 繰り返す部分を仕組みにする

基本の入力・出力を整えたうえで、文字やテンプレートなどを追加し、毎回ゼロから作らなくてよい形を考えます。

動画 13:01

AIへの相談例

編集部が作成した活用例です。動画内の発言をそのまま書き起こしたものではありません。

【編集部の活用例】この資料を根拠に、私の仕事で繰り返している作業を小さな道具にする案を考えてください。記載外の補足は区別し、私の状況を質問してから進めてください。誰のどんな手間を減らすのか、渡せる材料、最初に必要な機能、実際に使って確かめる点を整理してください。動画で紹介された試作品を、完成済みの商品や収益が保証された方法として扱わないでください。

資料について

- ・ 動画内の解説と実演を整理した資料です。
- ・ 料金、利用枠、モデルの仕様は撮影時点の説明です。
- ・ 紹介される金額の一部は利用料金の仮定の試算であり、実際の売上・利益を示していません。